

■「司令塔、夏に鍛える－1部6校のQBたち」⑤

「甲子園」MVPに学ぶ

山口 響生（釧路公立大、3年）

釧路公立大ゴールデンクレインズのQB山口響生（3年）には、忘れられない試合がある。先輩QBが体調不良のため、先発に抜擢された昨年の道学生選手権（秋季リーグ）の初戦の北海学園大戦。相手守備に圧倒されて5本のインターセプトを喫し、ファンブルを拾われたTDも2本。「右も左も分からないままのプレーだった」という。しかし、0-67で迎えた第4Q5分、第4ダウン・ギャンプルでWR高坂駿佑（当時2年）へ渾身の一投。高坂の好捕もあり20ヤードのTDパスを決めた。結局6-74の大敗だったが、「あのプレーで、自分が頑張らなきゃだめなんだと分かった」と振り返る。悔しさと司令塔の自覚が、続く北星学園大戦、東京農業大戦の連勝につながり、1部挑戦2年目での3位躍進にチームを導いた。



札幌清田高では野球部。先輩に誘われてアメフト部の練習を見学し、部の雰囲気にもひかれて入部した。勝敗にかかわる重要なポジションにやりがいを感じてQBを志望し、1部昇格の立役者だった4年生QBからみっちり手ほどきを受けた。168センチ、74キロと小柄ながら、野球で鍛えた肩で「ショートパスもロングパスも投げられる」と自信を持つ。味方守備の時にコーチと打ち合わせはするが、攻撃が始まるとプレーコールも自分で決める。試合のビデオを繰り返し見て「同じ失敗を繰り返さない」と自らに言い聞かせる勉強家だ。

今春、強力な助っ人が登場した。立命館大OBで2002年の甲子園ボウルMVPの梶田圭輔氏が、故郷の根室管内標津町で会社を起し、釧路空港を利用する縁で釧路公立大のコーチを買って出た。「QBの大事なことは冷静さ、と梶田さんから言われた。QBの心構えとゲームメイクを教わっている」と感謝する。6月の帯広畜産大とのオープン戦も、冷静な試合運びで逆転勝ちした。「今年のチームはレシーバーが良い。RBもそろっている。梶田さんに教わったことを生かして、去年以上の順位を目指す」と1部3年目の目標を掲げた。